

羅針盤



2017 年 12 月 1 日 (金) 第 29 号

持てる力を自分の夢に注ぎ込みなさい。
そうすれば、自分自身から生み出されるもの
の大きさに驚くだろう。

(ウィリアム・ジェームズ
(アメリカの哲学者・心理学者))

ふくしま高校生スマホ宣言

県内すべての高校の生徒代表が集まった初の「ふくしま高校生スマホサミット」が、11月27日(月)にビッグパレットふくしまで開かれ、1年生を中心に各校代表の生徒96人が集まりました。黎明からも5組の神沼葉奈さんが参加しました。(1)仲間内でのコミュニケーショントラブルを避ける(2)SNS上に動画・画像投稿する際の注意点(3)ネット依存にならない(4)SNSでの出会いトラブルの被害に遭わない—の4つのテーマに沿って議論し、この日「高校生スマホ宣言」として発表されました。

黎明17期生を代表して参加した神沼さんの報告、そして意見です。しっかり読み、考えましょう。

最初は、スマホを持っていない私がワークショップやサミットに参加して意味があるのだろうか、と
思っていたのですが、2回とも、とても有意義なものとなりました。

まず11/7に開催された「高校生スマホワークショップ」では、県内の各高校の代表生徒が集まり、
班ごとに各学校で作ったスマホルールや複数の事例をもとに話し合いを行って、新たにスマホルールの
標語を作成しました。

さらに、11/27の「ふくしま高校生スマホサミット」では、座間市で発生した殺人事件において、本
県的女子生徒が殺害された事件を受け、出会い系のトラブルを防止するための標語がつくられました。
この2回の活動をとおして決定したスマホルールが次の4つです。

『ふくしま高校生スマホ宣言 2017』

考えて 直接話す 大切さ

いい写真 それをのせてもいい写真?

Myスマホ 親にあずけて NO!スマホ

SNS 出会いの裏側 SOS

この4つに共通するのは、相手と対面して直接コミュニケーションをとることを大切にしてほしい、ということです。LINE や Message など、画面上だけでやりとりをするから互いの本当の気持ちが伝わらず、人間関係が複雑化します。また、SNS 上に相手の許可なく写真や動画を投稿することも、人間関係が崩れることの原因の一つです。

お金には代えられない友達や時間、命を、スマホという機械 1 つに奪われてしまってよいのでしょうか。私たちにとって本当に大切なものは何か、スマホの本当の使用目的は何なのかを、スマホを持っているみなさんだからこそ自分事として真剣に考え、スマホと付き合っていくべきだと思います。そして、スマホの所有権は、あなた方の保護者にあるということを忘れないでください。



『保護者講話』(11月29日水)

5名の保護者の方々にご協力いただき「保護者講話」を実施することができました。忙しいなか講師をお引き受けいただいた舟橋俊介様、大崎晃一様、箭内勝則様、松井朋子様、芳賀正則様、本当にありがとうございました。黎明では毎年恒例の取り組みとなっておりますが、17期では多くの保護者の皆様にご協力いただき、夏休み明けに『16歳のハローワーク』を作成し、卒業後の進路の先にある「仕事

持って働く(社会に参画する)」ということに目を向ける取り組みをしてきました。今回は直接お話をお聞きできる貴重な時間となりました。

以下、生徒の感想を紹介します。

2組 八幡 優香 さん

「成功とは、自分の立てた目標を達成することであり、目標が大きい小さいかは関係ない」この言葉が今の私には強く印象に残りました。私はいつも、どうやったら周りの人に迷惑をかけずに済むかなあとか、どうしたらこの状況を自然に乗り越えられるかなあといったような、「積極的」とは言えない考え方をしてきましたが、この言葉を聞いて自分なりの最大限の努力をして、自分の立てた目標を達成できるように頑張ろうと思いました。

どんな職業でも形は様々ですが人の役に立っているということを改めて思いました。目に見える形で人の役に立つのはもちろん嬉しいけれど、目に見えない形で人の役に立てるとということも本当に幸せだなと思いました。目に見えない形であっても、誰かの役に立てるような人間になりたいと思いました。



1組 鹿俣 千佳 さん

今日は様々な職種の方々に話を伺いましたが、職業やそれまでの経験が違っても、いくつか共通点があることに気がつきました。一つは高校3年間の過ごし方が現在の仕事にもつながっているということです。読書をして見聞を広めたり、資格を取ったりと、いま私たちにも将来に生かせることができるのだと感じました。もう一つは、人との関わりを大切にしてきたということです。どんな職業でも人とのコミュニケーション能力は必要不可欠だと思います。そして、それを学生である今、多くの人と話して考えを深めることが大事なのだと思います。私はまだ将来やりたいと思うことがはっきりとは決まっていません。これまでは、そのことに焦りを感じたり、不安に思ったりしていましたが、今回のお話の中で「高校生は土台づくりの時期」という言葉を聞いて、今自分にできることを小さなことでも積み重ねていくことが、将来の職業にも役立っていくのだと感じました。

1組 佐藤 成美 さん

今回の講話を聴いて印象に残ったことは3つあります。

一つ目は、「当たり前」は自分勝手だということです。毎日3食ご飯を食べられること、学校に通えること、家族がいてあたたかい家に帰れることなど、私の毎日の生活は全部が当たり前ではない。当たり前

12月	曜日	行事等	朝学習
1日	金		数学
2日	土	(週末課題:国語・英語。数学は通常通り)	
3日	日		
4日	月	※課題・プログレス提出	数学
5日	火		英語
6日	水		国語
7日	木		総合
8日	金		数学
9日	土	(週末課題:国語・英語。数学は通常通り)	
10日	日		
11日	月	※課題・プログレス提出	数学
12日	火	40分授業日	英語
13日	水		国語
14日	木	全校集会(40分授業5校時)	総合
15日	金	冬季課外	
16日	土	冬季課外	
17日	日		

前なことは何一つないと気づかされました。いつもこのことを頭の片隅に入れておきたいです。

二つ目は、仕事は人それぞれ個性があるということです。5人の方々の話を聞いてみると皆さん考え方や話し方がちがうと思いました。人それぞれで仕事に対する考え方も違っていいんだなと思えました。

三つ目は、行動から気持ちが生まれるということです。普通きちんと決意してから行動する人が多いと思うのですが、確かに思っているだけで行動できないことが多いなと思います。まず難しいことは考えずにとりあえずやってみることも意外に大切なことなのかもしれないと思えました。

今回、話を聞いてみて、自分の親の話も聞いてみたいと思えました。どんな人生を歩んできたのか、いつか知りたいと思えました。